JCI 社団法人 三原青年会議所新聞
やっさもっさ
2009年4月25日 Vol.367
三原JCビジョン 誇想創力
発行/社団法人 三原青年会議所
編集/総務・広報委員会
三原市皆実4丁目8-1
三原商工会議所内
TEL (0848) 63-3515
FAX (0848) 62-1141
(社) 三原青年会議所公式サイト http://www.mihara-jc.com e-mail : info@mihara-jc.com 三原青年会議所 検索

大人が子どもの鏡とならなければ日本は滅ぶ

子どもたちのために親自らが意識を変革しなければならない！

(社)三原青年会議所は3月19日(木)公開例会として「親学」の提唱者である明星大学教授の高橋史朗氏を迎え『「思いやりの心を育む」大切さ』と題し、講演会を開催しました。

高橋 史朗 氏

心の貧しさは日本を滅ぼす

マザー・テレサが来日された際このようなメッセージを日本人に伝えて、警鐘を鳴らしました。

マザー・テレサの言葉

「アフリカの国々が滅びるのならば、貧困が原因でしょうが、日本は心が原因で滅びるでしょう。日本人はインドのことよりも日本国内の心の貧しい人への配慮を優先して考えるべきです。愛はまず手近なところから始まります。パンがなくて飢えるより、心や愛がなくて飢えるほうが深刻です。豊かな日本には心の貧しい人がたくさんいます。それに気づくことさえできない人もいます。愛は家庭から始まります。まずは家庭から、不幸な人を救いなさい。自分の家庭が愛に満たされなければ、隣人を愛することはできません。」

また、様々なデータから、日本の子どもたちの環境について検証しました。下枠参照

明治にはあった！家庭教育の規範

明治時代後期には「家庭心得」という、教育の在り方に関する文書が、学校から家庭に配布されていました。その中に、とても大切な言葉が載っています。

「諺(ことわざ)にも、教育の道は、家庭の教えで芽を出し、学校の教えで花が咲き、世間の教えで実がなる」

現在では、家庭も世間も教えは衰退し、学校だけが教育の矢面に立たされているように思われます。具体的な例として、東京都教育委員長の発言として「東京都の教育委員会の最大の課題は、モンスターペアレントへの対応である」というものがあります。東京都は「親との訴訟保険」に加入している小中学校の先生が30%を超えています。

昔は家庭と地域が教師を支えていましたが、現在はそうではありません。教師は大変なプレッシャーの中で仕事を行なっているのです。

すべては大人に責任がある

また「家庭心得」には、このような記載もあります。

ドイツを筆頭とする西洋諸国にて、通例小学校生徒の欠席は、父兄もしくは保護者の罪とし、理由なく学校を休む時には罰金もしくは禁固の刑に処す

当時の西欧で学校に行かないことは、親の罪になるのです。そして100年前のみならず、現在の西欧諸国でも同じような対応がなされています。**親が子どもの教育に対して全責任をもっているのです。**ですから、不登校の定義は「親の教育怠慢」であると考えられています。

日本では、校外で子どもが事件を起こしても、学校の校長や教師が責任を問われます。アメリカでは、校内で子どもが事件を起こしても、親が責任を取ります。

親の責任について、日本と諸外国では大きな意識の差があるのです。私は、日本人のその意識を変えなければ、この現状は変えられないと思っています。

日本人の子育て文化の断絶

読売新聞の調査によると、日本人の公共マナーが悪化したと答えた人は88%もいます。「家庭でのしつけに問題がある」「大人がマナーを守らない」「周りの大人が子どもに注意をしなくなった」といった理由があげられていました。これら**すべてはみんな大人の問題なのです。**まずは、大人が自らの意識を改めない限り、子どもたちのマナーは改善されません。そして、教育も改善されません。自分以外の誰かに責任を押し付けている限り、教育も子どもも変わらないのです。そして、これが教育改革の出発点なのです。

現代の日本では、子育ての文化が断絶しているのです。

相次ぐ凶悪事件の2つの共通点

近年、子どもたちの起こす凶悪事件には、2つの共通点があります。ひとつは、思いやり(共感性)が欠けていること。そして、自己抑制力が欠けていることです。IQ(知能指数)は高いがEQ(心の知能指数、情動指数、思いやりの心)が低い子どもが増えているのです。そして、大人しくて真面目で優秀な子どもたちが、相次いで事件を起こしているのです。

＜子どもの環境にまつわる様々なデータ＞

- 日本青少年研究所の調査によると「私は役に立たない人間である」と答えた子どもたちが56.4%にも上る。
- ミシガン大学の調査では、世界でもっとも「幸せであると感じている」国は、ナイジェリアであり、次いでメキシコである。ニューズウィーク誌の評として「逆境が人間関係の絆を深めているからではないか」と分析している。
- ユニセフによる「子どもの幸福度調査」によれば「孤独を感じている」と答えた日本の子どもが30%もおり、世界の主要国の中では10%を超えている国はない。人間関係が希薄になっているのではないか。

本紙『やっさもっさ』は、1月から11月まで毎月1回(25日)発行し、新聞折り込みを中心に配布しております。何卒ご愛読ください。※資源保護のため再生紙を使用しています。